

増田川ダム検証難航

河川整備計画に影響

国が検証を指示した増田川ダム(安中市松井田町上増田)に「豆字典」の建設是非を審議する県と高崎、安中市による「検討の場」の第1回会議が2月に開かれて以来、再開の見通しが立っていない。事業主体の県は建設中止を視野に入れているものの、安中市などが求める代替案の検証が難航しているためだ。ダム事業の継続か中止の答えを出さなければ、河川整備の具体的な事業を定める碓氷川圏域の河川整備計画の策定に移れず、治水・利水対策の遅れにつながりかねない。

市の水道用水開発を目的に1996年度に事業着手した。当初1日2万6千トンの取水を計画したが、富岡市が既存上水道からの給水で代替できるとして、参画を中止。安中市も水需要の低下を見込み、取水量を2万4千トから5千トに縮小したため、県は事業中止を視野に入れている。

検討の場ではダム案と、それに代わる25治水案と16利水案をコストや実現性の面から比較検証する。安中市が求める1日5千トをダム以外の手段で確保する案を示す必要がある。初回会議でダム案のほかに、周辺ダムの有効活用や堤防のかさ上げなど11治水案、地下水取得など10利水案に絞り込んだが、次回の開催時期は未定という。

検証は当初、ことし3月末までに終える予定だったが、遅れると、河川法が定める河川整備計画策定への影響も懸念される。

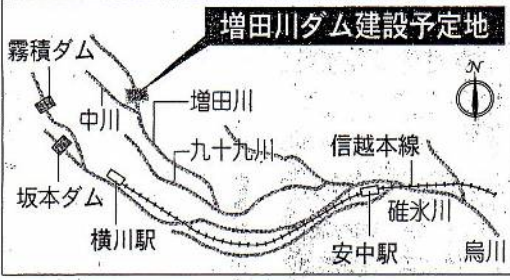
県河川課は「検証は初めての作業で思った以上に難航している。住民の命にかかわることなので、しっかりと検証し、できるだけ早く河川整備計画を作りた」と説明している。

公共事業見直しを掲げた民主党政権が2009年9月に発足し、10年9月に当時の馬淵澄夫国土交通相が増田川ダムなど全国84のダム建設の是非を検証するよ

う指示した。このうち39カ所で検証を終え、14カ所が事業中止、ハツ場ダム(長野原町)を含む25カ所は建設継続との結論が出ている。

豆字典 増田川ダム

安中市を流れる増田川と中川の合流部から約1キロ上流に計画されている。完成年度は検証の結果、当初の2013年度から23年度に見直され、総事業費は5億円増の382億円となった。有効貯水量510万トのうち、洪水調節機能が290万ト、利水容量が260万ト。



増田川ダム建設予定地。霧積ダム、坂本ダム、横川駅、安中駅、碓氷川、信越本線、九十九川、増田川、中川、烏川。